

令和 5 年 5 月 12 日

令和 4 年度研究開発報告

住所 大阪府大阪市中央区大手前 2 丁目
管理機関名 大阪府教育委員会
代表者名 教育長 橋本 正司

令和 4 年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発実施内容を、下記のとおり報告します。

記

1 事業特例校名・類型

学校名 大阪府立豊中高等学校能勢分校
学校長名 中原 光子
類型 グローカル型

2 令和 4 年度研究開発実施概要

本校は能勢町の活性化と能勢町でのグローバル人材育成につなげていくことを目的に平成 27 年度から 5 年間の SGH の実績を築き上げた。その実績を礎とし本研究開発では高等学校においてグローバルリーダーを育成するために、能勢町でローカルな生き方をしている人たち、地方で誕生し始めている若手起業家、グローバルな世界で起業している若手起業家を訪ね、地域でグローバルに生きるための方策を研究することにより、地域の人材育成をめざすものである。

本校の研究開発構想テーマは「能勢版シュタットベルケとの協働実践の研究～人口減少全国ワースト 24 位の町と分校の雇用創造への挑戦～」である。これまでの研究開発やコンソーシアムでの研究、議論等から継続課題研究の柱の一つに地域電力会社の立ち上げを目標にしていたが、この課題研究がきっかけとなり令和 2 年 7 月に、能勢町・豊能町共同出資による地域電力会社、「(株)能勢・豊能まちづくり」が設立され、“能勢版シュタットベルケ”が始まった。そして、全校生徒が能勢版シュタットベルケの理解と再生可能エネルギー、脱炭素社会についての学びを深めるために、能勢町と共同企画で「能勢町×能勢分校 連携公開講座」を開催した。能勢分校生だけでなく、地域住民とともに学ぶことで、町と学校で能勢町の未来について考えている。

新型コロナウイルス感染症の影響から、海外への現地実態調査には赴けない中、モンゴル、スペイン、ベトナムからの留学生から各国の環境に対する取り組みや考え方を聞く機会を設けた。その学び等をふまえ、課題探究最終発表会においては、地域住民公開型で自分たちが重ねてきた探究活動の発表を行った。また、小中高一貫教育研究会においても環境についての小中高の連携による取り組みについて検討を続けており、地域へ取り組みを広める活動を模索している。

また、コンソーシアムによる取り組みの中から、新たなプロジェクトが二つ始まっている。一

(別紙様式5)

つは、中山間エリアの交通課題解決を目的に、国際交通安全学会、東京大学等と開始したE-bike(電動アシスト自転車)による社会実験である。もう一つは、能勢町の施策として始まった「里山留学制度」で、通学する「里山留学生」が能勢町の伝統産業、芸能、農業等を学び、能勢町における地域課題を魅力に変換し、「能勢モデル」として広く発信、継承していく「里山留学プログラム」である。

本校の課題探究開発カリキュラムから地域との協働と実践がより進み深まってきている。そしてこの課題研究内容が、町行政及び町民に周知されてきた。能勢分校の課題探究活動は、コンソーシアムを通じて、地域との協働による連携講座等で有効性を発揮している。本年度、能勢町は「地域資源が循環する里山未来都市の実現」を掲げ、「SDGs未来都市」の指定を受けた。能勢分校の活動は、これらの動きに大きな影響を与えるものである。

3 教育課程の特例の活用 (□で囲むこと)

ア 学校設定教科・科目を開設している

イ 教育課程の特例の活用している

4 コンソーシアムについて

①コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名
能勢町(総務課、教育委員会を含む)	町長：上森 一成
能勢町商工会 青年部	青年部代表：奥 航太郎
(株)能勢・豊能まちづくり	代表取締役：榎原 友樹
大阪能勢田尻菊炭振興協議会	代表：畷 美海
能勢の高校を応援する会	会長：西田 彦次
大阪府教育委員会	高等学校課教務グループ担当者：橘 恵太
大阪府立豊中高等学校能勢分校	准校長：菅原 亮
能勢高等学校 SGH 卒業生有志	代表：小路 昌秀(慶應義塾大学院生)

②活動日程・活動内容 ※昨年度以前よりコンソーシアムは継続して組織している

活動日程	活動内容
5月1日	菊炭と里山を未来につなぐ植樹会
6月18日	秋鹿酒造 田植え体験
7月1日、11月28日、12月19日	能勢町×能勢分校連携講座(全4回)(第4回は中止)
9月27日	地域電力会社、再生可能エネルギー活用に関する協議
9月28日	西田栗園 銀寄栗のフィールドワーク
9月30日	グラウンドへのソーラーパネル設置ワークショップ
10月22日	能勢地域魅力化フォーラム
1月28日	秋鹿酒造 酒蔵見学

(別紙様式 5)

5 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①科目「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」「総合的な学習の時間」におけるGS基礎講座	→											
②科目「課題探究GS」「プレ課題探究GS」におけるGS重点講座	→											
③英語プレゼンテーション講座										1回	2回	1回
④海外からの留学生WS			1回	1回			1回					
⑤課題研究成果 発表						1回			1回			
⑥その他(E-bikeプロジェクト、里山留学プログラム)	2回	1回	1回	0回	0回	5回	8回	1回	4回	1回	1回	1回

(2) 実績の説明

1. カリキュラム開発

1年次生は全員が学校設定科目「産業社会と人間」の時間を軸に外部の識者による講座を地域住民とともに聴講し、日々の学習活動の中で地域の環境についての学習を深めた。また、まとめの学習として探究内容に即した外部識者に直接オンライン等でインタビュー調査を行い、学年末に学習発表会を行った。

2年次生は全員が「総合的な探究の時間」において外部識者による講座を地域住民とともに聴講し、修学旅行ではSDGs達成をめざす産業廃棄物処理業者や愛媛県上島町弓削島を訪問し、「SDGs未来都市 能勢町」実現に向けた学びを深めた。学校設定科目「プレ課題探究GS」では、修学旅行での学びをふまえ、地域でできる「能勢版SDGsの実践」を探究した。これらの学びを学年末に課題探究発表会で発表した。

3年次生は全員が「総合的な探究の時間」を軸に外部識者による講座を地域住民とともに聴講した。学校設定科目「課題探究GS」では全員がグループに分かれ、課題探究テーマを自ら設定し、外部から大阪府立大学 伊井直比呂教授、大阪みどりのトラスト協会、地域農業家、能勢町総務課や地域振興課、能勢町観光協会、地域手話サークル等の多くの能勢地域関係各所のもと探究活動を行いテーマ発表、中間発表、最終発表と探究を深めた。

2. 実施項目

① GS (グローバルスタディ) 課題探究基礎講座

3年次生は「総合的な探究の時間」、2年次生は「総合的な探究の時間」「修学旅行」、1年次生は「産業社会と人間」において講座を展開するとともに担当教科が日々の学習活動の中でもクロスカリキュラムとして取り組んだ。また、コンソーシアムの一環として能勢町との連携講座を行った。

(別紙様式5)

- ・論理的に考え表現する力
 - ・データを活用し筋道を立てて整理する力
 - ・グローバルな視点で課題を把握する力
- ・・・国語・英語
・・・数学・情報
・・・地歴公民・理科・家庭・農業

② GS (グローバルスタディ) 課題探究重点講座

3年次生は「課題探究GS」、2年次生は「プレ課題探究GS」において講座を展開した。

3年次生は必修科目「課題探究GS」として全員が履修した。数グループに分かれ、一年を通し、1、2年次生時の取組みであった諸外国でのエネルギー事情等の研究を踏まえ、「能勢町の里山保全」「能勢版SDGs」を軸に能勢の地域課題へと探究を深めた。能勢町の行政から提示された地域課題や、クロスカリキュラムとしての能勢分校各系列授業の学びの中から、自ら課題を発見し探究に取り組み、その成果を発表した。

2年次生「プレ課題探究GS」は選択生徒が後期より取り組んだ。修学旅行での学びをさらに深め、地域でできる「能勢版SDGsの実践」を探究した。

③ 英語プレゼンテーション講座

地域魅力化クラブ員を中心に、能勢の魅力外国人留学生に伝える活動を行った。イギリス、ドイツ、ラトビア、フランス等の国から関西学院大学に留学している外国人留学生に向けて、英語を使ってコミュニケーションする力を養った。

④ 海外からの留学生とのワークショップ

5～7月にスペイン、7～10月にベトナム、10～11月にモンゴルからの留学生と交流を行った。それぞれの留学生から各国の概要や課題等を具体的に聞き、ディスカッションを行った。

⑤ 課題研究成果発表

課題研究の成果は各学年、年度末に学習発表会の形で全員が発表する場を設けた。特に3年次生は「課題探究GS最終発表会」にて、能勢町民参加のもと、全員がプレゼンテーションを行い、その内容を成果集として発行した。ほぼすべてのグループが学校外の団体と協働し探究を重ねたものとなった。

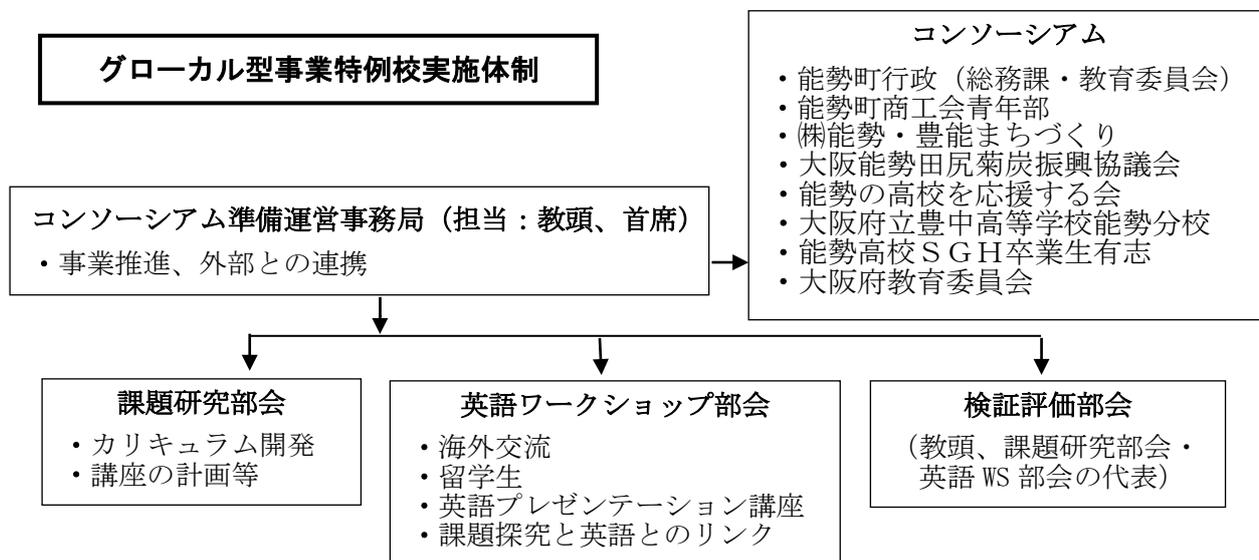
里山留学プログラムの一環では、能勢町の地域課題を魅力として発信する持続可能な「能勢プログラム」を全国ユース環境活動大会で発表し、近畿大会でSDGs活動特別賞を受賞した。

⑥ その他(E-bikeプロジェクト、里山留学プログラム)

E-bikeプロジェクトは「総合的な探究の時間」「産業社会と人間」において、「交通課題解決と環境問題」についてアンケートを行う等の啓発学習を行った。実証実験は課外活動で実施した。里山留学プログラムは能勢町との協働事業としてコンソーシアムで計画を進め、課外活動で実施した。

(別紙様式 5)

(3) 研究開発の実施体制について



(4) 次年度以降の課題及び改善点

地域との協働による高等学校教育改革推進事業は本年度が最終年度になる。5年間のSGHの活動と3年間の本事業の活動をふまえ、今後は一層地域との連携による学びの付加価値を高めていくことにつなげたい。

【担当者】

担当課	教育振興室 高等学校課	TEL	06-6946-2387
氏名	松田 佳大	FAX	06-6944-6888
職名	指導主事	e-mail	MatsudaYo@mbox.pref.osaka.lg.jp